

ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状

－医療に頼らない健康管理のためのヘルスケア－

日 時： 2018 年 3 月 22 日（木） 13 時 00 分－17 時 35 分
会 場： 日本大学・経済学部 7 号館 講堂（最寄り駅：JR 水道橋駅から徒歩約 5 分）
<http://www.eco.nihon-u.ac.jp/access/>
主 催： 横幹技術協議会、横幹連合
参 加 費： 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料、
その他 2,000 円（資料代含む）。当日資料代：1,000 円（希望者のみ）

参加申込：【事前登録】オンライン申込（http://www.trasti.jp/forum/forum51_kyg.html）

【企画趣旨】

世界的に高齢化が進む中で、健康上の問題がない状態で日常生活を送れる、いわゆる健康寿命の重要性が高まっています。健康状態をどのように維持するかあるいは増進するかは我々の大きな関心事となっています。予防保全的な意味で、病気になるようにするにはどのように生活習慣を維持するのかが近年の IoT の整備、センサー系のヘルスケアデータの取得技術、ビッグデータの解析の進歩により、自己の健康管理が可能になってきました。

本フォーラムでは、ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状を紹介するとともに、個人の健康管理につながるヘルスケア・サイエンスの次なる展開を産官学連携で行い、我が国の発展に役立つ基礎を提供することを目標としています。

【プログラム】

(敬称略)
総合司会：鎌倉 稔成(中央大学)

13:00-13:10	開会あいさつ	鈴木 久敏 (横幹連合 会長)
13:10-15:35	◆ 趣旨説明	鎌倉 稔成 (中央大学)
	◆ 講演 1 「医療・健康科学における統計リテラシー： 情報・システム研究機構、統計数理研究所の取り組み」	山下 智志 (統計数理研究所)
	◆ 講演 2 「ヘルスケアイノベーションのためには健康無関心層対策が肝要」	久野 譜也 (筑波大学)
15:35-15:50	休 憩	
15:50-16:35	◆ 講演 3 「健康・医療情報を活用した予防政策の実現 －医療分野における人工知能の役割－」	江崎 禎英 (経済産業省)
16:35-16:40	休 憩	
16:40-17:30	◆ 総合討論	司会：鎌倉 稔成 (中央大学)
17:30-17:35	閉会あいさつ	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)

横 幹 技 術 フォーラム

ヘルスケア・サイエンスの取り組みと現状
-医療に頼らない健康管理のためのヘルスケア-

2018 年 3 月 22 日 (木) 13 時 00 分 - 17 時 35 分

【 講 演 要 旨 】

(敬称略)

趣旨説明	データサイエンスとヘルスケア
	<p>◆ 鎌倉 稔成 (中央大学 理工学部 教授)</p> <p>近年のウェアラブル・センサーの進歩により、人間の日常に行動計測が可能になってきた。また、そのセンサー・データを分析するデータ解析技術の進化も必要になっている。ここでは、問題提起として、どんなデータと技術が必要であるかを議論する。</p>
講演 1	医療・健康科学における統計リテラシー：情報・システム研究機構、統計数理研究所の取り組み
	<p>◆ 山下 智志 (統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター センター長)</p> <p>統計数理研究所は、本年度 4 月から組織改革により健康科学研究センターを開設し、データサイエンスの視点から健康科学研究を推進する。これまでの経緯と今後のヘルスケアに対しての取り組みについて説明をする。</p>
講演 2	ヘルスケアイノベーションのためには健康無関心層対策が肝要
	<p>◆ 久野 譜也 (筑波大学 教授、つくばウエルネスリサーチ代表取締役社長)</p> <p>地域や国の政策としてのヘルスケアを考えるには、健康管理に関心を持っている層よりは、むしろ無関心な層に対してどのように対策を講じるかが重要であることを具体例によって説明する。国内でいち早く大学の研究成果に基づく健康作りを支援するベンチャー企業設立や、地域社会挙げての健康社会建設に向け地方自治体を結集した地域活性化総合特区「健康長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」の立ち上げなど、豊富な実施経験を踏まえて報告する。</p>
講演 3	健康・医療情報を活用した予防政策の実現－医療分野における人工知能の役割－
	<p>◆ 江崎 禎英 (経済産業省 商務・サービス政策統括調整官)</p> <p>国家における行政官の立場から、ヘルスケアについて、現状を踏まえて説明する。公的保険外の予防・健康管理サービスの活用(セルフメディケーションの推進)を通じて、生活習慣の改善や 受診勧奨等を促すことにより、『国民の健康寿命の延伸』と『新産業の創出』を同時に達成し、『あるべき医療費・介護費の実現』につなげる。具体的には、生活習慣病等に関して、「重症化した後の治療」から「予防や早期診断・早期治療」に重点化するとともに、地域包括ケアシステムと連携した事業(介護予防・生活支援等)に取り組む。</p>
総合討論	
	<p>司会：鎌倉 稔成 (中央大学 理工学部 教授)</p>